

書く力を高める国語科指導の在り方

枕崎市立桜山小学校

教諭 西 雄 大

目 次

I	研究主題について	2
1	はじめに	2
2	研究主題	2
3	研究主題設定の理由	2
II	研究の構想	3
1	研究のねらい	3
2	研究の仮説	3
3	研究の流れ	3
4	「書く力」とは（目指す児童像）	4
5	本研究の目指す国語科の学習（構造図）	4
III	研究の実際	5
1	仮説1について	5
(1)	学習過程の工夫について	5
(2)	基礎・基本定着のための時間	5
(3)	単元を通して身に付けたい力を育むための時間	6
2	仮説2について	7
(1)	ワークシートの工夫	7
(2)	発問の工夫	8
(3)	調査問題の活用	8
3	仮説3について	9
(1)	南日本新聞「子供のうた」への投稿，週報への掲載	9
(2)	語彙を増やすための読書指導，辞書引き指導	9
IV	研究の成果と今後の課題について	10
1	研究の成果	10
2	今後の課題	10
3	おわりに	10

【引用，参考文献】

- 『授業が一気に活性化！ただただおもしろい音読の方法48手』2019年 木元省美堂 垣内幸太
- 『小学校学習指導要領解説 国語編』2018年 文部科学省
- 『音読・暗唱の効果的な指導スキル&パーツ活用辞典』2014年 明治図書出版 谷和樹
- 『白石範孝の国語授業 おさえたい指導の要点』2012年 明治図書出版 白石範孝
- 『白石範孝の国語授業の教科書』2012年 東洋館出版社 白石範孝
- 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』2010年 文溪堂 二瓶弘行

1 はじめに

2018年にOECDが行った生徒の学習到達度調査（PISA）の結果で明らかにされたのは、読解力が他の2つの分野に比べて極めて低いという実態であった。読解力の問題の解答状況を分析したところ、特に、自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明することに課題があることが分かった。誤答には、自分の考えを他者に伝わるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られた。また、全国学力・学習状況調査でも、「書くこと」に関する正答率は48.6%と、他の領域と比較しても低いことから、書く力を高めていくことは、国語科の指導における大きな課題であるといえる。

そこで、書く力を高め、自分の考えを形成したり表現したりすることのできる児童の育成を目指し、本研究を進めることにした。

2 研究主題

書く力を高める国語科指導の在り方

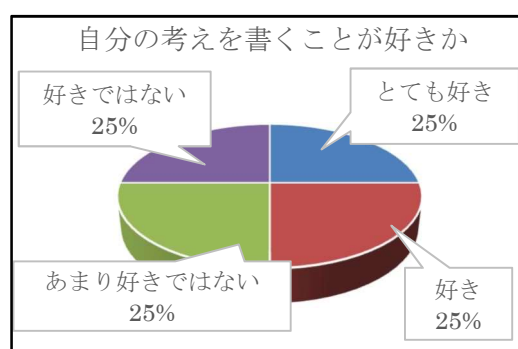
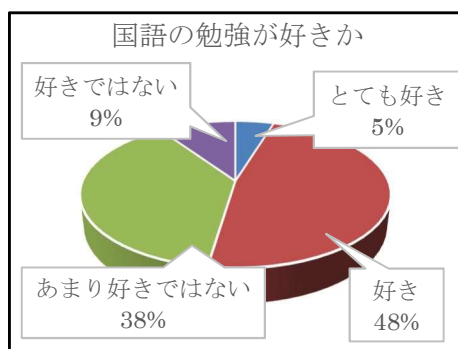
3 研究主題設定の理由

(1) 時代や社会の要請から

OECDが行った生徒の学習到達度調査（PISA）や、全国学力・学習状況調査の結果からも分かるように、児童の書く力の低下が浮き彫りとなっている。自分の考えを形成したり表現したりする力を高めることは、国語科における喫緊の課題といえる。そこで、書く力を普通の授業の中で高める指導実践をしていくことは意義深いものであると考えられる。

(2) 児童の実態から

これまでの教師生活から、学年が上がるにつれて、国語に対する苦手意識をもつ児童が多くなっている実感がある。「自分の考えを書くのが苦手」や「どのように書いていいのかが分からず書けない」といった言葉を聞くこともあった。そこで、「国語の学習は好きか」、「自分の考えを書くことが好きか」というアンケートを4月に取った。結果は以下のとおりである。



アンケート結果より、国語に対して苦手意識をもっている児童が半数近くいることが分かった。また、自分の考えを書くことについても苦手意識をもっている児童が多い。本学級の2年生が、国語や書くことに苦手意識をもつことなく、「国語の勉強が好き」、「すらすら書いて嬉しい」と、国語の学習に意欲的に取り組んでほしいと考え、本実践を行うことにした。

II 研究の構想

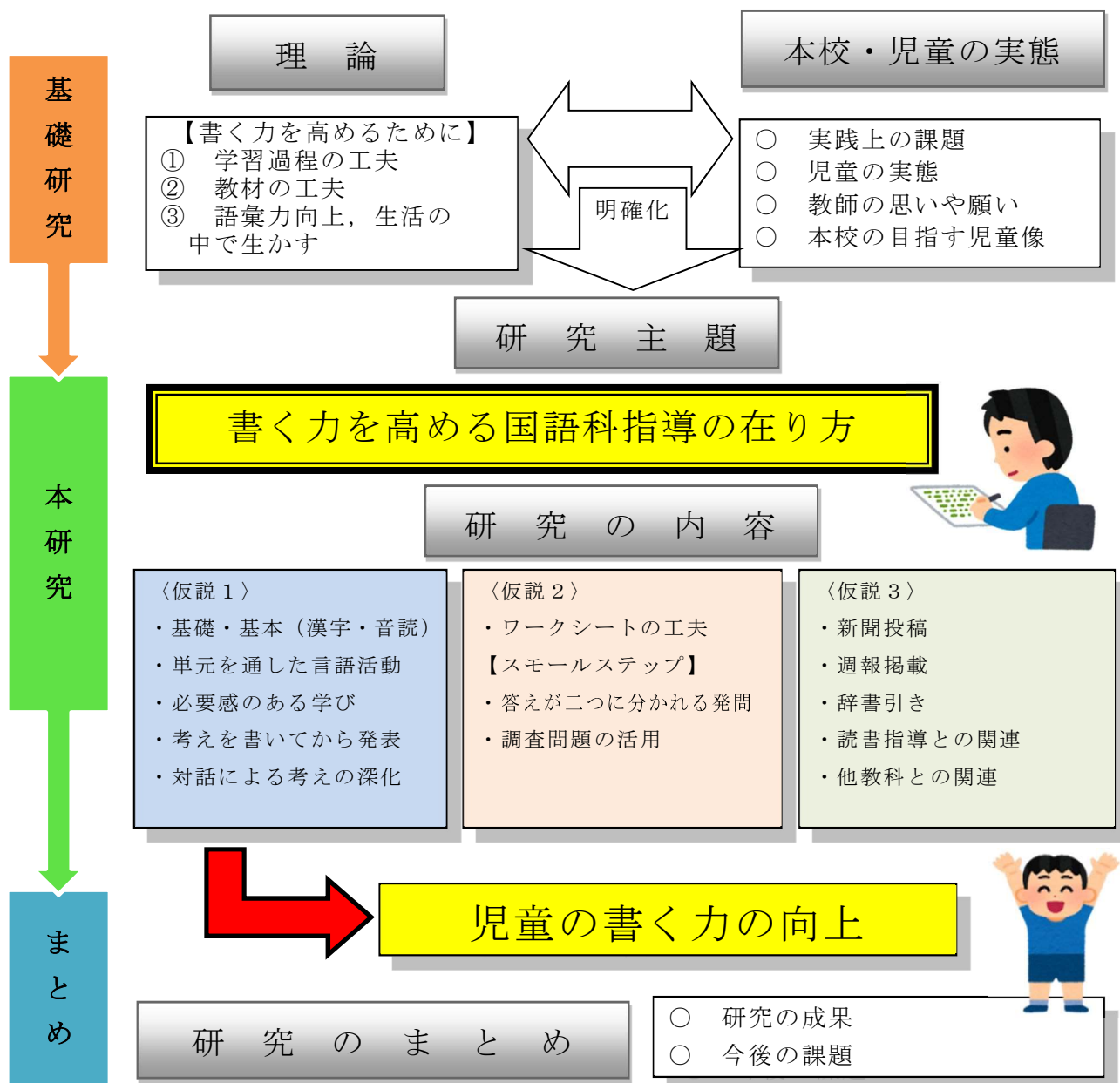
1 研究のねらい

- (1) 書く力を高めるための指導方法を先行研究からより多く探し出し、学習指導要領に沿った指導を行う。
- (2) 児童が書く力を高めることができるような指導方法を工夫し、学習活動を展開する。
- (3) 児童の変容やアンケート、単元テストでの比較等を通して、指導方法の有効性を検証し、書く力についての成果と課題を明らかにしながら、今後の実践に生かす。

2 研究の仮説

〈仮説1〉国語科の学習において、学習過程（授業の流れ）を工夫することで、児童の書く力が高まるのではないか。
〈仮説2〉国語科の学習において、教材を工夫することで、児童の書く力が高まるのではないか。
〈仮説3〉書く力を支える語彙力を高めたり、国語科で学習したことを生活の中で生かしたりすることで、児童の書く力が高まるのではないか。

3 研究の流れ



4 「書く力」とは（目指す児童像）

学習指導要領解説には、「書くこと」の指導事項は、右の5点で構成していると書かれている。これらの指導事項を授業の中で児童に身に付けさせていく必要がある。そこで、本学級の2年生の児童に身に付けさせたい書く力を高める視点を以下のように3つ設定し、研究を進めていくことにした。

「書くこと」の指導事項	
1	題材の設定、情報の収集、内容の検討
2	構成の検討
3	考えの形成、記述
4	推敲
5	共有

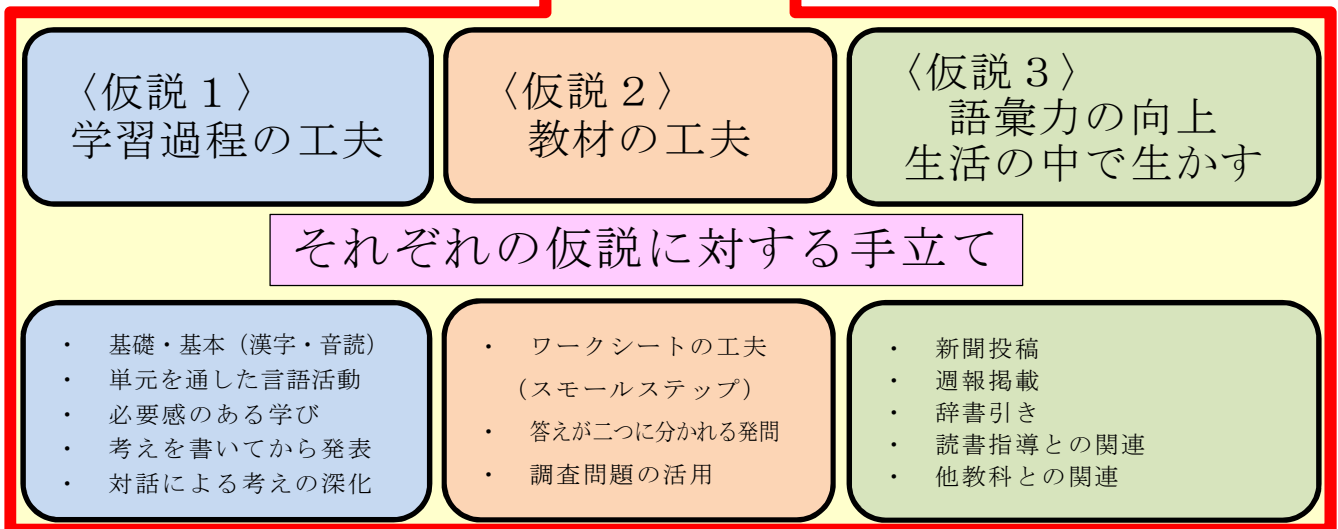
【2年生の児童に身に付けさせたい書く力を高める視点】	
書く力A【情報収集力】	自分が書きたいことを見付け、必要な事柄を集める力。
書く力B【構成力・記述力】	文章の構成を考え、自分の考えが分かるように書く力。
書く力C【推敲力・共有力】	文章を読み返して間違いを正したり、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けたりする力。

5 本研究の目指す国語科の学習（構造図）

目指す児童像にせまるために、以下の研究内容を設定し、研究を進めた。



書く力を身に付けた児童



Ⅲ 研究の実際

1 仮説1について

〈仮説1〉国語科の学習において、学習過程（授業の流れ）を工夫することで、児童の書く力が高まるのではないか。

(1) 学習過程の工夫について

一時間の授業を大きく3つのまとまりに分けて授業を行った。

基礎・基本定着のための時間（5分）

- ・ 漢字練習（漢字フラッシュ・漢字小テスト等）
- ・ 音読練習（様々な読み方で何度も音読・暗唱）



単元を通して身に付けたい力を育むための時間（35分）

- ・ 単元を通じた言語活動，必要感のある学び
- ・ 学習計画を立てることで，常にゴール（目標）を意識した学習
- ・ 自分の考えを書いてから発表
- ・ 対話的活動による自分の考えの深化



振り返り・定着のための時間（5分）

- ・ 学習したことを振り返り，自分の言葉でまとめる
- ・ ポストテストの実施，ノート回収



(2) 基礎・基本定着のための時間

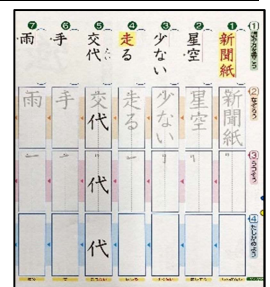
書くための基礎として，様々な漢字を書いたり，様々な文をすらすら読めたりするスキルが必須である。これらのスキルを高める活動を一単位時間の授業の中に組み込み，定着を目指す。

ア 漢字練習（漢字フラッシュ・漢字小テスト等）の実施方法

書く力C【推敲力・共有力】

以下の5つの活動を授業の始めにローテーションして行う。

- ① 漢字スキルを使い，新出漢字を確認する。
 - ② 新出漢字の練習を行う。右の写真のページを手本に家庭学習で何度も反復練習をする。
 - ③ 漢字プレテストの実施。プレテストで間違えるとやり直し5回。
 - ④ 漢字小テストの実施。小テストで間違えるとやり直し10回。
 - ⑤ 単元テストの実施。単元テストで間違えるとやり直し15回。
- 【随時】デジタル教科書の漢字フラッシュを何度も行う。



イ 音読練習（様々な読み方で何度も音読・暗唱）

書く力B【構成力・記述力】， **書く力C【推敲力・共有力】**

図1 漢字練習・手本

音読をすることで，「読解力が高まる」，「集中力が増す」，「脳の活性化につながる」など，様々な効果があるとされている。読むことと書くことは，それぞれ独立した関係にあるわけではない。文章をたくさん読むことで，文の書き方の型を知ったり文章の内容や表現のよさを見付けたりすることができる。つまり，「構成を考える力」や「文章の内容や表現のよいところを見付ける力」などの書く力にもつながってくる。しかし，ただ音読するだけでは，児童にたくさん読ませることはできない。そこで，以下に示す様々な読み方で音読を行った。

音読の方法	内 容	音読の方法	内 容
追い読み	教師の範読に続き、児童が読む。	起立読み	起立して○回、座って○回読む。
交代読み	教師と児童で交代して読む。	列読み	縦・横一列ずつ立って読む。
	男子と女子、グループで、廊下側と窓側、列ごとで読む。	音読修行	読み終わると場所を変えていく。数か所回ると修行終了。
	座席の前と後ろ、左と右、一人一人一文ずつ交代で読む。	リレー読み	好きな場所で交代して読む。
声の変化読み	大きな声で、小さな声で、高い声で、低い声で読む。	アウト読み	教師が間違えて読んだ箇所を見つけたらアウトと言う。
一斉読み	自分のタイミングでそれぞれ一斉に読む。	スピード読み	早く読む。
指名なし音読	自分が読みたいときに読む。二人同時の場合は譲り合う。	30秒(1分)読み	定めた時間でどこまで読めたか。
教師の 真似読み	高い声で、かわいい声で、怖い声で読む。	増え(減り)読み	読む児童がどんどん増えていく(減っていく)。
	楽しそうに、悲しそうに、ニュースを読むように読む。	役割読み	会話文と地の文を交代して読む。
	偉そうに、おどおどした感じで、外国人のように読む。	記録読み	読んだ回数を記録する。1回読むごとに題名の横に○を書く。
たけのこ読み	読みたい文を事前に3文決め、立ち上がり読んで読む(みんなが読まないところは読むようにする)。児童が読まないところは教師が読む。	ペア読み 音読対話	隣と聞き合いながら読む。つまつたところや分からない漢字、語句には線を引く。読めるようになったら線を消す。

図2 様々な音読の方法

(3) 単元を通して身に付けたい力を育むための時間

授業の中で、最も核となる時間がこの時間である。その中でも、書く力を高めるために行った取組に焦点化し、以下に示していく。

ア 単元を通した言語活動、必要感のある学び

書く力A【情報収集力】、書く力B【構成力・記述力】、書く力C【推敲力・共有力】

学習のねらいの達成につながる効果的な言語活動を行うための、言語活動指導計画例である。常に、文章を書くことと単元を通した言語活動とを関連付けられるようにした。具体的には、「おもちゃの作り方を説明する文を書こう」という言語活動であれば、自分が説明するおもちゃの作り方をメモする。そして、前単元で学習した説明する文章の構成や、順序を表す言葉等をおさえながらメモに書き加えていく。常に、終末時の言語活動を意識することで、一単位時間に必要感をもたせることができる。

この指導計画をもとに、児童用の学習計画を作成することで、教児共に、常にゴール(目標)を意識した学習を行うことができる。

時	主な学習活動	具体的な学習活動
1	〈導入〉 ・ 学習課題の設定 ・ 学習計画の作成	〈導入〉「おもちゃの作り方を説明する文を書こう」 ・ 学習課題の設定 ・ 終末時の言語活動を明確にする。 ・ 学習計画の作成。
2		
3	〈展開〉 ・ 単元の課題解決と単元を通した言語活動を支える学習活動を行う。	〈展開〉「おもちゃの作り方を説明する文を書こう」 ・ 自分が説明するおもちゃの作り方をメモする。 ・ 前単元で学習した説明する文章の構成や、順序を表す言葉等をおさえながらメモに書き加えていく。 ・ 常に、終末時の言語活動を意識して、一単位時間に必要感をもたせる。
4		
5		
6	〈終末〉 ・ 児童に付けたい力を付けるための言語活動	〈終末〉「おもちゃの作り方を説明する文を書こう」 ・ 展開で書いたメモや、文章の構成を生かし、終末時の言語活動を行う。
7		

図3 単元を通した言語活動指導計画例

イ 自分の考えを書いてから発表，対話的活動による自分の考えの深化

書く力A【情報収集力】，書く力C【推敲力・共有力】

- ① 点線で囲まれた□に自分の考えを書いてから，発表や話し合いを行うことで，自分の考えを伝えることができる。
- ② □には，対話的活動後の自分の考えを書く。

A児は，はじめは「がまくんはお手紙を一度ももらったことがないから幸せでない」と考えていたが，対話的活動を通して「友達がいるからがまくんは幸せである」と自分の考えを変化させた。

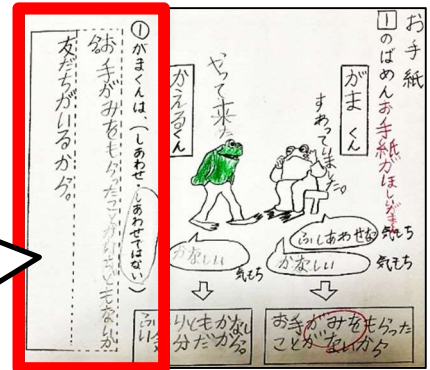


図4 A児のワークシート

【考察1：学習過程の工夫について】

- (2)ア 漢字は，何度も練習することで，全員だんだんできるようになってきた。また，徐々に負荷を上げたことにより，毎回緊張感をもって取り組むことができた。
- (2)ア 学期末の漢字まとめテストでは，1学期90点，2学期92点の平均点を取ることができた。また，再テストを実施し，全員が100点を取ることができた。
- (2)イ 教師が間違えて読んだ箇所を見付けるアウト読みが大好きで，読み間違いを見付けられるようになった。結果として，自分や友達の文章の間違いに気付くことができるようになってきた。
- (2)イ 4月～12月の間に，全員が6つの詩や文章を暗唱することができた。
- (3)ア 単元を通した言語活動を設定したり学習計画を立てたりしたことで，教児共に常にゴールを意識しながら，授業に取り組めた。
- (3)イ 自分の考えを書いてから発表したり対話的活動で自分の考えを深めたりすることで，自分の考えに自信がもてた。次に書く意欲につながった。

2 仮説2について

〈仮説2〉国語科の学習において，教材を工夫することで，児童の書く力が高まるのではないか。

(1) ワークシートの工夫 **書く力A【情報収集力】，書く力B【構成力・記述力】**

スモールステップで少しずつ書けるようになるように，ワークシートを工夫した。以下の手順で授業を実施した。

- ① 教科書の文章を音読し，接続語や指示語，順序を表す言葉などに線を引く。
 - ② 教科書の文章を見ながら，虫食いにしてあるワークシートに大事な言葉を写す(図5)。
 - ③ 材料と道具・作り方・遊び方ごとにまとめたワークシートに，おもちゃの作り方をメモする。
 - ④ 大きな枠組みと，絵を描く位置だけ示してあるワークシートに書く(図6)。
- 虫食いのワークシートと自分の書いたメモをもとに，全員が書くことができた。

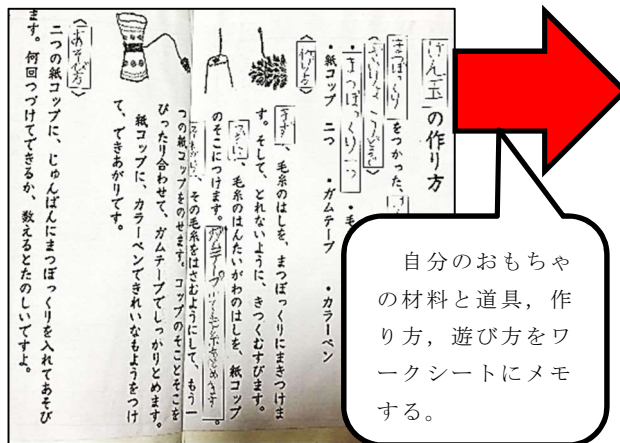


図5 虫食いワークシート

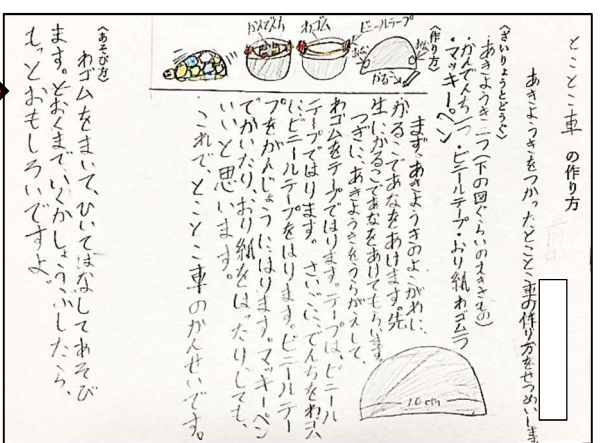
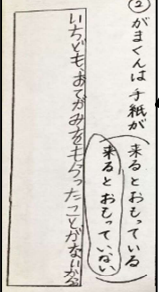


図6 大きな枠組みのみのワークシート

(2) 発問の工夫 **書く力B【構成力・記述力】**

答えが二つに分かれるような発問（賛成・反対，悲しい物語・楽しい物語等）を行う。叙述をもとに，理由を付けて意見を述べさせるようにした。

単元名「お手紙」
 発問「がまくんは，手紙が来ると
 と思っていますか，思っていない
 ですか。」
 B児「来ると思っていない」
 理由「一度もお手紙をもらっ
 たことがないから。」



児童が自分の考えをもつことができるように，答えが二つに分かれる発問を行う。B児は，自分の考えを挙手して発表することは苦手だが，この手立てを取ることで，教科書の叙述をもとに，自分の考えを書くことができた。

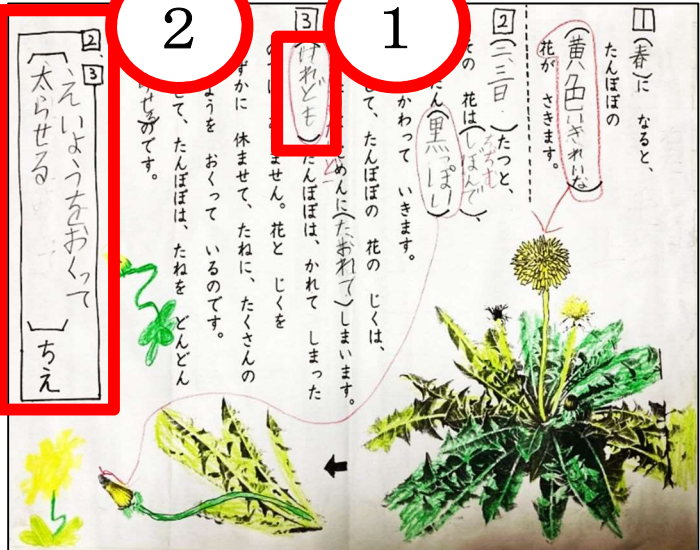
図7 B児のワークシート

(3) 調査問題の活用 **書く力B【構成力・記述力】**

NRTの分析を4月に行ったところ，本学級では，「書くこと」だけでなく，「読むこと」の落ち込みも見られた。特に，重要な語をおさえることができなかつたため，内容の大体を捉えることができなかつた。そのため，自分の考えを考えたり書いたりするところまでいかなかつた児童も多かつたようだ。そこで，重要な語をおさえるなどの読む力を付け，内容の大体を理解することで，自分の考えを表現することができると考えた。そこで，以下のことについて様々な単元の中で指導した。

- ① 接続語や指示語，順序を表す言葉などに注意して読むこと。
 → 構成を考えながら読んだり，内容の大体を理解したりすることができる。構成や書き方を知り，自分が書くときに生かすことができる。
- ② 授業の終わりに，内容の大体を短くまとめたり，2～4択で選ばせたりすること。
 → 内容の大体をとらえることができる。
- ③ 文章で読み取ったことを絵や図と結びつけたり絵で表したりすること。
 → 本当に理解しているかを，確認することができる。

2



3

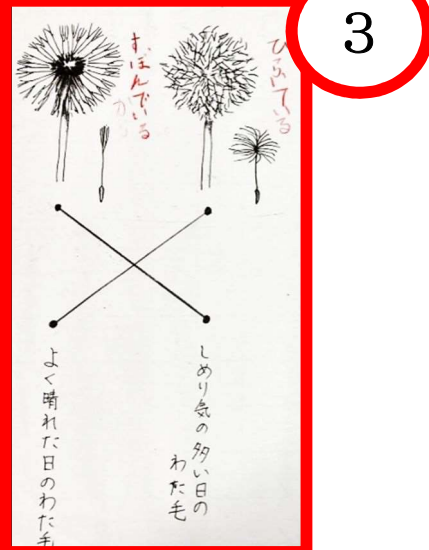


図8 調査問題を生かしたワークシート

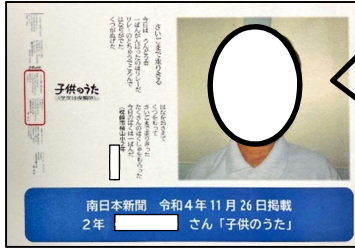
【考察2：教材の工夫について】

- (1) スモールステップでのワークシートを作成したことにより，全員がおもちゃの作り方を説明する文章を書くことができた（難易度が低めのワークシートに1名変更）。
- (2) 答えが二つに分かれる発問にしたことで，自分の立場が明確になり，意見や考えが書きやすくなった。結果として，書くのが苦手な児童も考えを書くことができた。
- (3) 調査問題の分析を行ったことで，読む力も落ち込んでいることが分かった。読む力と書く力の両方の力を付けることで相乗効果が得られた。

3 仮説3について

〈仮説3〉書く力を支える語彙力を高めたり、国語科で学習したことを生活の中で生かしたりすることで、児童の書く力が高まるのではないかな。

- (1) 南日本新聞「子供のうた」への投稿、週報への掲載
 家庭学習で取り組んだ日記を、南日本新聞の「子供のうた」に投稿したり、週報に掲載したりしている。国語科で学習したことを、生活の中で生かすことで、書く力を更に高めることを目指す。



実際に「子供のうた」に掲載された文章は、顔写真付きで校内の掲示板と教室の二カ所に掲示している。

図9 子供のうた掲示物

書く力A【情報収集力】

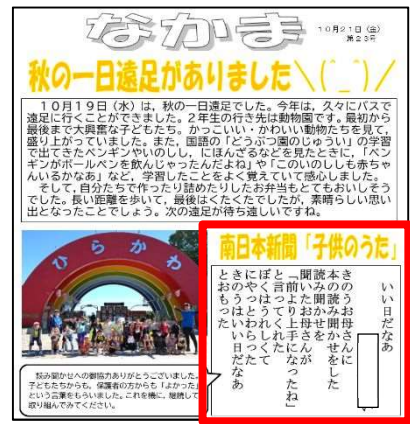


図10 週報

- (2) 語彙を増やすための読書指導、辞書引き指導

書く力A【情報収集力】、書く力B【構成力・記述力】、書く力C【推敲力・共有力】

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。とりわけ、書く力の向上には、語彙力が必要不可欠となってくる。そこで、以下のような語彙を増やすための活動を実施した。

ア 読書指導

桜山小学校では、低学年の児童は年間120冊以上の本を読むことを目指している。2時間目休みや昼休みに本を借りることを必ず声かけしたり、自分で学級文庫を作ったりして、児童が本を読む環境作りを行っている。また、家族に読み聞かせをするなどの手立てを取っている。

イ 辞書引き指導

本学級では、どの教科でも分からない言葉が出てきたときは辞書を引くようにしている。一番早く辞書を引くことができた児童にページを言わせるようにしている。そうすることで、早く引けるようになることと一回あたりの時間の短縮になる。短い時間で何度も何度も辞書を引くことで、学習している内容の理解も深まり語彙も豊かになっていく。



図11 図書室利用の様子



図12 学級文庫（西文庫）



図13 辞書引きの様子

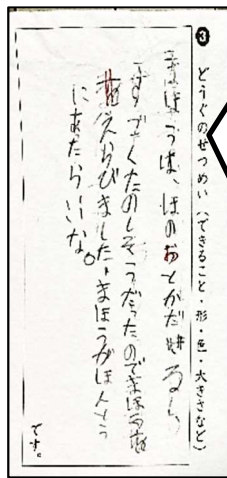
【考察3：語彙力の向上、生活の中で生かすことについて】

- (1) 新聞に掲載されるかもしれないという心地よい緊張感で、よい表現を使おうとしたり、丁寧に書こうとしたりする児童が増えてきた。
- (2)ア 年間目標である120冊の本を全ての児童が2学期中に読むことができた。
- (2)イ 辞書を引く習慣が付いてきた。分からない言葉があると、児童から進んで辞書を引くようになってきた。

IV 研究の成果と今後の課題について

1 研究の成果

(1) 「書く力」の変容



文章の構成や語と語や文と文の続き方を考えたり、文章を読み返したりすることが苦手であった。

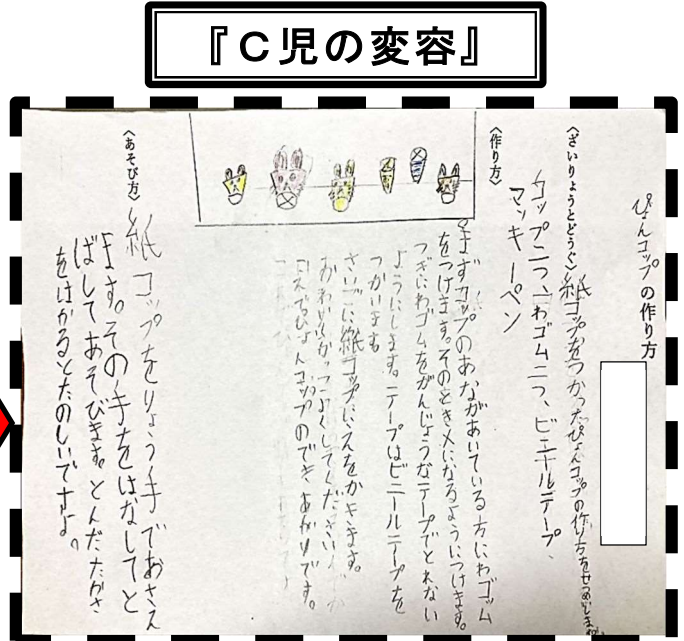
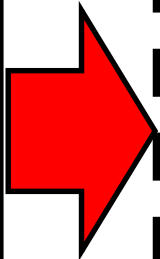
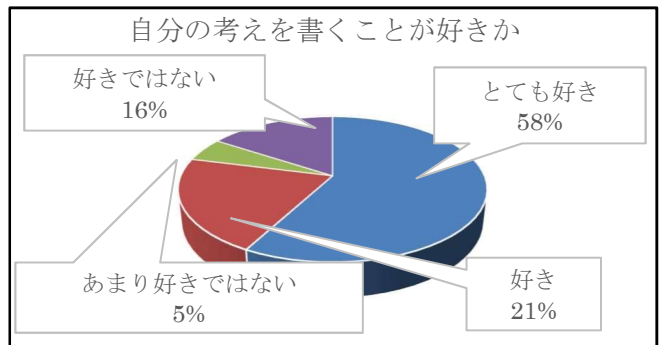
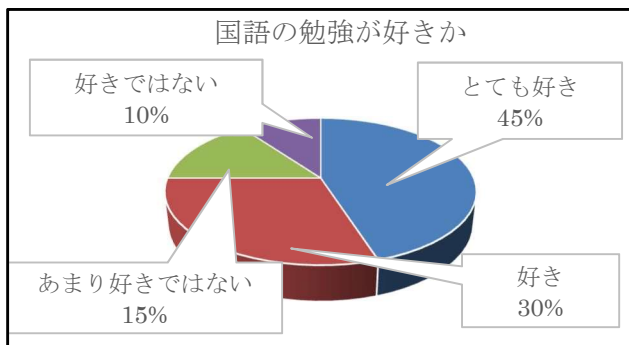


図14 あったらしいなこんなもの (6月)

図15 おもちゃの作り方をせつめいしよう (11月)

C児の変容からも分かるように、図14「あったらしいなこんなもの」の学習では、構成や推敲することができていなかった児童も、「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の学習では、構成や語と語の続き方等、しっかりと書くことができていた。図15のワークシートから分かるように、児童の書く力の高まりが実感できた。

(2) アンケート結果 (2学期末に実施)



「国語の勉強が好きか」の質問に、**75%**の児童が「とても好き」、「好き」と答えた (4月は53%)。また、「自分の考えを書くことが好きか」の質問にも**79%**の児童が「とても好き」、「好き」と答えた (4月は50%)。児童の意見の中には、「授業が楽しいので国語が好き」や「おもちゃの作り方を説明する文を書けて嬉しかった」というものもあり、学習の達成感が今回の結果となったのではないかと考える。

また、単元テストの「書く」の観点の学級達成率が、1学期末は**88%**だったのに対し、2学期末は**96%**となった。テストでも書くことについての向上が見られた。

2 今後の課題

ワークシートやアンケート、テストから児童の書く力が向上したことが分かったが、まだ、2割程度の児童は国語の勉強や書くことに対して苦手意識をもっていることが分かる。併せて、今回位置付けた書く力を高める視点A【情報収集力】、B【構成力・記述力】、C【推敲力・共有力】について、これからも継続して指導・評価していく必要がある。

3 おわりに

今回の研究では、3つの仮説をもとに書く力を高めるための工夫を行った。学習過程や教材を工夫したことで、児童の意欲的に取り組む姿が見られた。先行研究をもとに、深い教材研究をしていくことの重要性を改めて感じた。また、今回、国語で身に付けた書く力を生活の中や他教科にも波及させ、さらなる学力向上を目指していきたい。